

道内形成外科分野
ナンバーワンの実績

難治性褥瘡という耳慣れないが、一般的な言葉で表せば「床ずれ」。介護や看護に携わっている人には深刻かつ身近な病気だ。

超高齢化を迎えた日本社会にとって床ずれは非常に大きな問題となっている。簡単に言えば身体の重みが長時間、同じところにかかるとときにできる皮膚の傷が床ずれだ。寝たきり、またはそれに近い状態で体位変換が不十分だったり、局所の清潔維持が出来なくなると簡単に発症。皮膚から筋肉、更に深部の組織に壊死を起こす。深部の組織損傷が大きいと創腔は皮膚の創口より大きくなり、ポケットを形成。体力低下による感染症を招き、死に至る危険性も高い。

社会医療
法人社団
カレスサポロ

「病院の実力(形成外科)」「北海道1位
時計台記念病院

寝たきり高齢者の介護者を悩ます
劇的に改善
難治性褥瘡を

多くの介護者を悩ます褥瘡(じよくそう)。一番の治療法は予防だと言われるが、これは治療が非常に困難だからだ。そんな難治性褥瘡を劇的に改善すると評判なのが時計台記念病院。陣頭指揮を執る本田耕一医師に話を聞いた。



形傷タ
一創傷
田耕セ
外療セ
本成治一
長

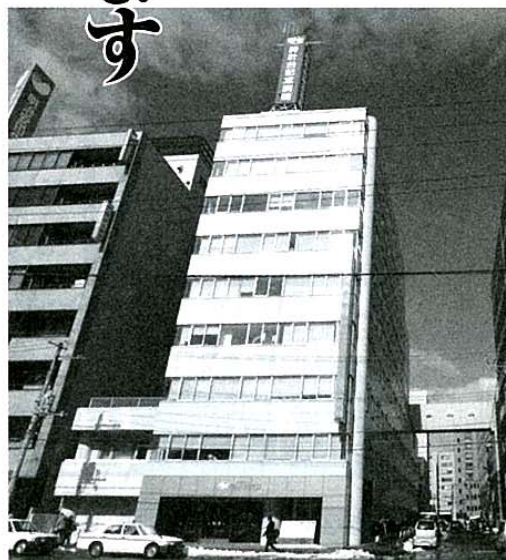
療法が確立されておらず、MRS Aなど院内感染の恐れが高いこともあって多くの医療機関で患者の受け入

れを拒んでいたのが実態。介護者を大いに悩ませていたのだ。そんな難治性の高い褥瘡

に、世界で初めて有効な治療法を考案した医師が札幌にいます。医療法人社団「カレス・サポロ」時計台記念

病院」形成外科・創傷治療センター長および時計台記念クリニック所長の本田耕一医師だ。

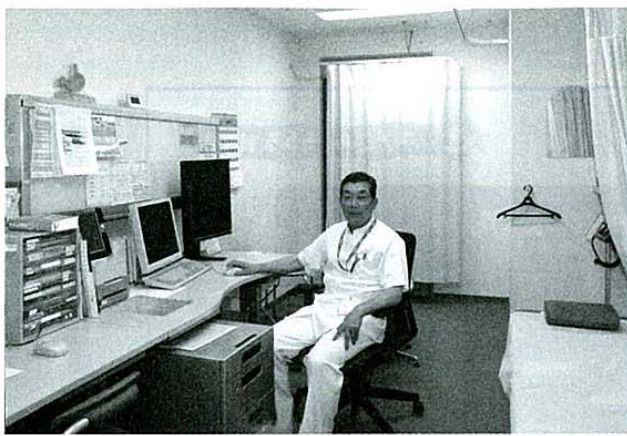
時計台記念
病院



成外科分野に抜群の治療実績を上げている。

読売新聞社調べの「病院の実力」特集では、形成外科分野における医療機関別2008年治療実績で「手術件数」やけなどの治療で道内ナンバーワンの実績を誇っている。また「顔面骨折などの治療」「手足の再建」でも道内2位にランクイン。全4部門で道内トッ

書籍も刊行し、
治療法を全国に
広めている



プの実績だ。

陣頭指揮を執る本田センター長は、北海道大学医学部卒業後、同大脳神経外科、形成外科などに入局。前日本褥瘡学会理事長である大浦武彦医師のもと、頭蓋顔面奇形の治療やマイクロサージャリーの分野を核として形成外科学を極める。

を注ぎ、難治となった「頭蓋骨欠損」「頭皮欠損」、それらを合併した上で感染を併発した「複合性難治性創傷」などの治療を展開した。

「陰圧閉鎖療法」とは壊死組織を切除して洗浄した上で、患部全体を透明な特殊フィルムで覆い密閉。注射器を使い吸引チューブでフィルム内の圧力を持続的に下げて過剰な滲出液や老廃物を除去するという療法。これによって「患部周辺の肉が患部を覆うように再生し傷が次第に縮んでいく」と本田センター長。

10年春からはアメリカで開発された陰圧持続吸引システム(VAC療法)が保険適用になり、多くの病院で導入されるようになった。在宅では「陰圧閉鎖療法」が主流となっている。



外来・手術ともに毎日午前・午後を実施。
土曜日も午前中に対応する

その後、形成外科メモリアル病院院長に就任。熱傷治療のエキスパートとして、急性期の全身管理から植皮手術に至る一連の治療を実施したほか、外傷性の組織欠損に対する再建術に心血

褥瘡は可能な限り外科的治療を行うが、高齢者など全身状態が不良の患者も多く「根治に至らなくても糖尿病と同じように、病気と共存し、現状を維持できれば合格だった」と本田センター長は当時を振り返る。

時計台記念病院の形成外科・創傷治療センターではこうした褥瘡治療で画期的な実績を残しているほか、循環器との連携により閉塞性動脈硬化症などの治療をサポートし、効果をあげているのも特筆する点。例えば糖尿病で脚部の壊死により、足切断を余儀なくされていた症例にカテーテル治療を施し血流を回復し切断を回避。患者に希望の光を与えている。

取材協力/時計台記念病院(札幌市中央区北1条東1丁目)011-251-1221